

令和5年度 第62回

農林水産祭



— 2024.4 —

公益財団法人 日本農林漁業振興会

第62回 農林水産祭式典

令和5度（第62回）農林水産祭式典は、令和5年11月23日（木）に明治神宮会館において、各界の代表者、中央・地方の農林水産関係者、農林水産祭参加行事において農林水産大臣賞を受賞した優秀農林水産業者等約600名の方々が参加して行われました。

式典は、宮下一郎農林水産大臣の主催者挨拶の後、むらづくり部門天皇杯受賞者の百姓百品グループ代表の和氣數男氏が生産者を代表して、明治神宮総代の進士五十八氏が消費者を代表して、それぞれ収穫感謝の言葉を述べられ、次いで選賞審査報告と天皇杯等三賞の授与、ご来賓の紹介、祝電の披露等が行われ、最後に明治神宮の木下龍輝権宮司の万歳三唱により閉幕しました。

農林水産大臣挨拶（要旨）

農林水産祭式典を挙げるに当たり、主催者を代表して、一言、御挨拶を申し上げます。

本日はお忙しい折、多くの皆様方に御出席を賜りまして、厚く御礼申し上げます。

農林水産祭は、国民の農林水産業と食に対する認識を深めるとともに、農林水産業者の技術改善及び経営発展の意欲の高揚を図るため、昭和37年から国民的な祭典として実施しており、今年で62回目となります。

この間、農林水産祭を支えていただいている関係者の皆様に敬意を表し、深く感謝申し上げます。

本日、天皇杯、内閣総理大臣賞、日本農林漁業振興会会長賞を受賞される皆様に対し、心からお慶び申し上げます。

我が国の農林水産業は、世界的な人口増加に伴う食料生産の不安定化に起因する食料安全保障上のリスクの上昇をはじめ、地球温暖化、生物多様性など、環境と調和のとれた取組への関心の高まり、農業・農村人口が減少する中で食料供給を支える力への懸念など、大きな歴史的転換点に立っていると認識しています。

農業政策の最も重要な使命は、国民に食料を安定的に供給することであり、将来を見据え、川上から川下まで、食料供給基盤を確かなものとしていくことです。

こうした中、国内の生産基盤を強化するとともに、活力ある農山漁村を次世代に継承していく優れた取組は一層重要になっております。

天皇杯等三賞の受賞者をはじめ、全国の農林水産大臣賞の受賞者の取組は、先進的な技術を導入するとともに、多くの方が、働きやすい環境づくりや女性の経営参画にも積極的に取り組んでおられ、地域の農林水産業、農山漁村の発展に大きく貢献してこられました。

皆様方におかれましては、本日を契機に後進の方々の模範となってさらに御活躍いただくことを御期待申し上げます。

結びに、本日御出席の皆様方並びに全国の農林水産業に携わる方々の今後ますますの御発展と御健勝を祈念いたしまして、私の挨拶といたします。

令和五年十一月二十三日



宮下 一郎 農林水産大臣

《収穫感謝の言葉》



生産者代表

むらづくり部門天皇杯受賞
百姓百品グループ 和氣 數男氏



消費者代表

明治神宮総代
進士 五十八氏

選賞審査報告

審査報告を申し上げます。

農林水産祭中央審査委員会では、昨年7月から本年6月までの1年間に、全国各地で開催されました266の農林水産祭参加表彰行事において、農林水産大臣賞を受賞されました456点を対象として、書類審査および現地調査を行いました。その結果、7部門において、それぞれ天皇杯、内閣総理大臣賞、日本農林漁業振興会会長賞の三賞の受賞者を決定いたしました。

また、「女性の活躍」について、内閣総理大臣賞及び日本農林漁業振興会会長賞の二賞を選考いたしました。

受賞者の方々の業績のうち、私からは、天皇杯受賞者の方々について、特筆すべき点をご報告申し上げます。

農産・蚕糸部門の鹿児島県南九州市の株式会社柘川製茶は、昭和33年に製茶工場を創業以来、三世代で50年以上にわたり茶品評会に連続出品し、大臣賞を多数受賞するなど、高く評価され、「知覧茶」のブランド化に大きく貢献しています。乗用型機械化体系による省力化・低コスト生産、多様な品種の栽培による収穫時期の分散を通じた効率化、自ら価格設定できる仕上茶販売主体の経営で高収益を上げており、その取組は地域における模範となっています。

園芸部門の広島県尾道市の「せとだエコレモングループ」は、輸入自由化と昭和50年代に寒波によって生産が激減した際に、消費者の安全・安心志向に応えることで産地の復興を図ろうとレモンの特別栽培に取り組み、平成20年に生産者全員が広島県特別栽培農産物の認証を取得したことを契機に、「せとだエコレモングループ」を結成しました。寒波による被害軽減の取組や、独自の栽培基準、栽培管理手法の確立により「皮まで食べられるレモン」の安定供給を実現しています。また、新商品開発や商標登録によるブランド力の強化を図ることで、生産者が安心して特別栽培に取り組みめる環境を築いています。

畜産部門の熊本県球磨郡錦町の株式会社有田牧場は、肉用牛一貫経営と酪農経営の規模拡大を図るとともに、耕種農家との連携により、国内飼料自給率を高めた強靱な経営を達成しています。子牛の健康管理や繁殖牛の発情分娩管理などにICT機器を活用するとともに、超音波式加湿器の利用、寒冷期の温水給与、子牛用授乳マシンの活用などで、省力化と損耗の防止を図っています。地域内連携による粗飼料生産拡大などの取組は、肉用牛経営の強靱化を図る上で全国の模範となるものです。

林産部門の北海道北斗市の谷口淳一さんは、平成25年に父の経営を受け継ぐとただちに、気象災害の受けにくい、かつ育苗作業を通年化できるコンテナ苗生産に着手しました。現在、谷口さんのコンテナ苗生産は、約52万本を作付けし、道内3位、うちトドマツ苗は道内の4割を占めています。ほ場や施設内の舗装化、移動式レール台やプラスチックパレットの導入、遠隔操作による灌水、施肥の設備等の積極的な設備投資により、労働環境の改善と効率的な生産を行い、北海道を代表するコンテナ苗生産者としてコンテナ苗を安定的に供給しています。

水産部門の富山県氷見市の株式会社半七は、伝統の製造技術を守りつつ、手開きなどの丁寧な作業を行い、脂ののった大型のマイワシを原料に従来のイメージを打破した柔らかくて、食べやすい「みりん干し」を開発しました。また、朝獲れの魚を使用した幼児食のチルド宅配サービスなど氷見産の魚のブランド力の向上に取り組みとともに、市内小学生を対象とした魚捌き教室への協力や冬季の除雪作業など地域活動にも貢献しています。

多角化経営部門の高知県安芸郡馬路村の馬路村農業協同組合は、6次産業化の取組の先駆けとして、昭和50年代からユズの生産・加工・販売を一貫して行なう体制を整えた結果、ユズの産地として全国的に認知されるようになりました。また、商品だけでなく、村の魅力を同時に売り込む広報戦略で観光客の誘致にも貢献しています。さらに、安心・安全なユズの栽培を行うために、平成13年から全農家が「馬路村ゆず栽培の指針」に即した栽培に取り組みとともに、ユズの加工過程で出た残渣を堆肥化するなど、循環型農業を実践しています。

むらづくり部門の愛媛県西予市の百姓百品グループは、高齢化や人口減少が進む中、農家140人で産直活動組合を設立したことを契機に、その後、耕作放棄地の解消のため農業生産法人を立ち上げて、青ネギの生産を開始しました。また、担い手確保と障がい者の経営的自立支援のために事業所を設立し、農福連携の取組も開始しました。現在、産直販売の出荷者は400名を超え、青ネギ生産では約200の「ほ場」で15haを借り受けるなど、農業ビジネスを通じた小規模農家の所得確保、高齢者や女性の生きがいや障がい者を含めた雇用の創出、耕作放棄地の発生防止等に取り組み、全国におけるむらづくり活動のモデル事例となっています。

内閣総理大臣賞、日本農林漁業振興会会長賞につきましても、「女性の活躍」による受賞を含め、それぞれ素晴らしい皆様方が受賞されました。

本日、受賞されました方々に、心からお祝いを申し上げますとともに、こうした方々の先進的な取組が全国に普及し、それによって日本の農林水産業がさらに活性化することを祈念致しまして、審査報告といたします。



中央審査委員会
会長 伊藤 房雄 氏

天皇杯等三賞の表彰

天皇杯は、7部門の受賞者に対し宮下農林水産大臣から表彰状が、林良博（公財）日本農林漁業振興会会長から天皇杯が授与されました。引き続き、内閣総理大臣賞は、宮下農林水産大臣から7部門及び「女性の活躍」の受賞者にそれぞれ授与され、日本農林漁業振興会会長賞は、林会長から7部門及び「女性の活躍」の受賞者にそれぞれ授与されました。



天皇杯受賞者



天皇杯授与の様子



内閣総理大臣賞受賞者



日本農林漁業振興会会長賞受賞者

ご来賓の祝辞、祝電等

天皇杯、内閣総理大臣賞、日本農林漁業振興会会長賞の授与後に、内閣総理大臣岸田文雄様からのメッセージと衆議院議長額賀福志郎様、参議院議長尾辻秀久様からのご祝電の披露がありました。また、多数の祝電のご紹介をいたしました。

農林水産大臣と三賞受賞者等との懇談会

式典終了後、農林水産大臣等と三賞受賞者の皆様との懇談会が行われました。

懇談会では、まず、三賞受賞者を代表して各部門の天皇杯受賞者から受賞のお礼や今後の抱負等についてお話があり、その後、宮下農林水産大臣、武村展英副大臣から受賞者に対してご挨拶を頂きました。



懇談会の様子

天皇杯等三賞の選賞

令和5年度の天皇杯等三賞（天皇杯、内閣総理大臣賞、日本農林漁業振興会会長賞）の選賞審査は、7月3日（月）に開催された農林水産祭中央審査委員会第1回総会を皮切りに、経営（兼多角化経営）、農産・蚕糸、園芸、畜産、林産、水産、むらづくりの各分科会において行われました。令和4年7月から令和5年6月にかけて全国で開催された266の農林水産祭参加表彰行事で農林水産大臣賞を受賞された優秀農林水産業者456人（団体、夫婦連名を含む）を対象に、部門毎に書類審査と現地調査による厳正な審査が行われ、10月10日（火）の中央審査委員会第2回総会において決定され、同11日（水）農林水産省 Web サイトで公表されました。



農林水産祭中央審査委員会第2回総会

天皇杯等三賞選賞の結果

	部門	出品財	受賞者		表彰行事
			住所	氏名等	
天皇杯	農産・蚕糸	産物 (茶)	鹿児島県 南九州市	株式会社栞川製茶 (代表 栞川 克可)	第76回全国茶品評会
	園芸	経営 (レモン)	広島県尾道市	せとだエコレモングループ (代表 宮本 悟郎)	第52回日本農業賞
	畜産	経営 (肉用牛一貫・酪農)	熊本県唐津郡 錦町	株式会社有田牧場 (代表 有田 耕一)	令和4年度全国優良畜産経営管理技術発表会
	林産	技術・ほ場 (苗ほ)	北海道北斗市	谷口 淳一	令和4年度全国山林苗畑品評会
	水産	産物 (水産加工品)	富山県氷見市	株式会社半七 (代表 窪田 博晃)	第33回全国水産加工品総合品質審査会
	多角化経営	経営 (ユズ)	高知県安芸郡 馬路村	馬路村農業協同組合 (代表 北岡 雄一)	第52回日本農業賞
	むらづくり	むらづくり活動	愛媛県西予市	百姓百品グループ (代表 和氣 數男)	第45回豊かなむらづくり全国表彰事業
内閣総理大臣賞	農産・蚕糸	経営 (水稲・WCS用稲(稲発 酵粗飼料)・そば)	鳥根県松江市	ライスフィールド有限公司 (代表 吉岡 雅裕)	第52回日本農業賞
	園芸	経営 (有機野菜)	茨城県石岡市	JA やさと有機栽培部会 (代表 田中 宏昌)	第52回日本農業賞
	畜産	技術・ほ場 (永年牧草)	北海道中川郡 中川町	丸藤 英介* 丸藤 紗織*	第9回全国自給飼料生産コンクール
	林産	産物 (乾しいたけ)	静岡県伊豆市	朝香 博典	第69回全国乾椎茸品評会
	水産	経営 (漁業経営改善)	福岡県宗像市	鐘崎あまはえ縄船団 (代表 権田 義則)	第28回全国青年・女性漁業者交流大会
	多角化経営	経営 (6次産業化)	愛知県常滑市	株式会社デイリーファーム (代表 市田 眞澄)	令和4年度全国優良経営体表彰
	むらづくり	むらづくり活動	山形県鶴岡市	越沢自治会 (代表 伊藤 治)	第45回豊かなむらづくり全国表彰事業
多角化経営	女性の活躍	新潟県小千谷市	新谷 梨恵子	令和4年度農山漁村女性活躍表彰	
日本農林漁業振興会会長賞	農産・蚕糸	経営 (葉たばこ・ミシマサイコ・ 水稲ほか)	熊本県唐津郡 あさぎり町	片瀬 克徳* 片瀬 真由美*	令和4年度(2022年度)熊本県農業コンクール大会
	園芸	経営 (スイーツ)	愛知県田原市	JA 愛知みなみスイーツ出荷連合 (代表 小久保 禮次)	第52回日本農業賞
	畜産	経営 (養豚)	茨城県下妻市	倉持ビッグファーム株式会社 (代表 倉持 勝)	令和4年度全国優良畜産経営管理技術発表会
	林産	経営 (林業経営)	青森県十和田市	有限会社下久保林業 (代表 下久保 眞信)	全国林業経営推奨行事
	水産	産物 (水産加工品)	長崎県松浦市	有限会社酒の一斗 (代表 池野 晋一)	第60回長崎県水産加工振興祭
	多角化経営	経営 (働き方改革)	愛媛県西宇和郡 伊方町	株式会社ニューズ (代表 土居 裕子)	令和4年度全国優良経営体表彰
	むらづくり	むらづくり活動	愛知県豊田市	一般社団法人押井管農組合 (代表 鈴木 辰吉)	第45回豊かなむらづくり全国表彰事業
多角化経営	女性の活躍	熊本県熊本市	JA 熊本市女性部 (代表 瀬上 カチ子)	令和4年度農山漁村女性活躍表彰	

(注1) 氏名等欄の*は、夫婦連名での受賞である。

優秀農林水産業者に係るシンポジウム

農林水産祭では、天皇杯等三賞受賞者の業績を広く普及することを目的として、例年、東京都内及び地方において、シンポジウムを開催しています。

都 内 開 催

【テーマ：継続的な収益と150年後に高資産価値林を生み出す持続的経営林づくり】（第34回）

令和5年6月22日（木）に東京都中央区の紙パルプ会館フェニックスホールにおいて、令和4年度林産部門で天皇杯を受賞された渡邊定元氏の業績を取り上げて、シンポジウムを開催しました。

農林水産省大臣官房の秋葉一彦政策情報分析官のご挨拶のあと、農林水産祭中央審査委員会林産分科会の鮫島正浩主査による選賞審査報告、渡邊定元氏による業績発表があり、引き続き、鮫島主査の進行により、中央審査委員会の田中浩委員並びに葛城奈海委員、大阪市立自然史博物館の大住克博外来研究員、静岡県経済産業部森林・林業局林業振興課の橘川渉課長代理のパネリストを加えて意見交換や参加者との質疑応答が行われました。シンポジウムは、行政関係者、農林関係団体、関連企業等など約70名の参加の下、実施されました。（このほか、Web配信では約80名の方にご視聴頂きました。）



業績業績発表の様子



渡邊 定元 氏



鮫島 正浩 主査



パネルディスカッションの様子

シンポジウム出席者（敬称略）

区 分	氏 名	所 属・職 名 等
業績発表者	渡邊 定元	令和5年農林水産祭林産部門天皇杯受賞者
コーディネーター 及び選賞審査報告	鮫島 正浩	農林水産祭中央審査委員会 林産分科会主査 (信州大学特任教授)
コメンテーター	田中 浩	農林水産祭中央審査委員会 林産分科会委員 (（公財）国際緑化推進センター技術顧問)
コメンテーター	葛城 奈海	農林水産祭中央審査委員会 林産分科会委員 ジャーナリスト
コメンテーター	大住 克博	大阪市立自然史博物館外来 研究員 (鳥取大学名誉教授)
コメンテーター	橘川 渉	静岡県経済産業部森林・林 業局林業振興課 課長代理
挨 拶	秋葉 一彦	農林水産省大臣官房政策課 技術政策室 政策情報分析官
司会・進行	小栗 邦夫	(公財) 日本農林漁業振興会 常務理事

地方開催

【テーマ:消費者の求める「皮まで食べられるレモン」に特別栽培で取り組む】(第35回)



宮本 悟郎 氏

令和6年2月20日(火)に広島市のホテルメルパルク広島において、令和5年度園芸部門で天皇杯を受賞されたせとだエコレモングループの業績に関するシンポジウムを開催しました。

農林水産省の島津久樹技術政策情報分析官と広島県の向井雅史農林水産振興担当部長のご挨拶のあと、中央審査委員会園芸分科会の櫻村芳記主査による選賞審査報告、せとだエコレモングループの宮本悟郎会長による業績発表に引き続き、櫻村主査の進行により、コメンテーターと業績発表者による意見交換や参加者との質疑応答などが行われました。

シンポジウムには、40名を超える皆様にご参加いただきました。(このほか、Web配信では、約40名の方にご視聴頂きました。)



パネルディスカッションの様子

シンポジウム出席者(敬称略)

区分	氏名	所属・職名等
業績発表者	宮本 悟郎	令和5年度農林水産祭園芸部門天皇杯受賞 せとだエコレモングループ会長
コーディネーター 及び選賞審査報告	櫻村 芳記	農林水産祭中央審査委員会園芸分科会主査 (農研機構・生物系特定産業技術研究支援センター研究開発監)
コメンテーター	徳田 博美	農林水産祭中央審査委員会経営分科会専門委員 (名古屋大学大学院生命農学研究科教授)
コメンテーター	根角 博久	農研機構・果樹茶業研究部門研究推進部長
コメンテーター	柳本 裕子	広島県立総合技術研究所農業技術センター果樹研究部副部長
挨拶	島津 久樹	農林水産省農林水産技術会議事務局研究推進課 技術政策情報分析官
	向井 雅史	広島県農林水産局農水産振興担当部長
司会・進行	小栗 邦夫	(公財)日本農林漁業振興会常務理事

【テーマ:地域課題を農業で解決!老若男女・農も福祉も、地域一丸「百姓百品」】(第36回)

左 井上 桃子氏
右 和氣 數男氏

令和6年2月28日(水)に愛媛県松山市のANAクラウンプラザホテル松山において、令和5年度むらづくり部門で天皇杯を受賞された百姓百品グループの業績に関するシンポジウムを開催しました。

中国四国農政局の仙台光仁局長、愛媛県の中村時広知事(代読)、西予市の管家一夫市長のご挨拶のあと、中央審査委員会むらづくり分科会の福与徳文主査の選賞審査報告、百姓百品グループの和氣數男会長並びに、井上桃子氏による業績発表が行われ、引き続き、福与主査の進行により、コメンテーター、業績発表者による意見交換や参加者との質疑応答が行われました。

シンポジウムには、約110名の皆様にご参加頂きました。(このほか、Web配信では50名を超える皆様にご視聴頂きました。)



パネルディスカッションの様子

シンポジウム出席者(敬称略)

区分	氏名	所属・職名等
業績発表者	和氣 數男	令和5年度農林水産祭むらづくり部門天皇杯受賞 百姓百品グループ会長
	井上 桃子	令和5年度農林水産祭むらづくり部門天皇杯受賞 百姓百品グループ(株式会社野村福祉園代表取締役)
コーディネーター 及び選賞審査報告	福与 徳文	農林水産祭中央審査委員会むらづくり分科会主査 (茨城大学農学部教授)
コメンテーター	畠山 智之	農林水産祭中央審査委員会むらづくり分科会委員 (NHK財団 専門委員 元 NHK アナウンサー)
コメンテーター	管家 一夫	西予市長
コメンテーター	竹島久美子	愛媛大学社会共創学部 地域資源マネジメント学科助教
挨拶	仙台 光仁	農林水産省中国四国農政局長
	中村 時広 代読:須藤 達也	愛媛県知事 (愛媛県農林水産部農政企画局長)
	管家 一夫	西予市長
司会・進行	小栗 邦夫	(公財)日本農林漁業振興会常務理事

天皇皇后両陛下への拝謁と業績説明

令和5年度の農林水産祭参加表彰行事において、7部門それぞれで最も優秀な農林水産業者として選定され、最高の栄誉に輝いた天皇杯受賞者は、令和6年3月15日（金）に皇居宮殿北溜において天皇皇后両陛下に拝謁し、受賞者の代表から天皇杯受賞に対するお礼言上を行い、天皇陛下から励ましのお言葉をいただきました。



天皇皇后両陛下への天皇杯受賞者のお礼言上

天皇皇后両陛下への業績説明

拝謁に引き続き、伊藤房雄中央審査委員会会長及び川合豊彦農林水産省大臣官房技術総括審議官のご先導により、両陛下は、林産部門、水産部門、多角化経営部門、むらづくり部門、農産・蚕糸部門、園芸部門、畜産部門の順に、受賞者からそれぞれの業績について説明を受けられました。

各天皇杯受賞者のご説明に対して、両陛下から、展示物に関する技術や経営、生産状況等について多岐にわたるご下問があり、短い時間の中でそれぞれ温かい励ましのお言葉をいただきました。



水産部門の業績説明



多角化経営部門の業績説明

天皇杯受賞者の皇居特別参観・記念撮影

拜謁・業績説明に先立ち、宮内庁担当者の案内により、皇居特別参観が行われ、宮殿と回廊に囲まれた中庭、二重橋、賢所、生物学研究所（水田）、紅葉山御養蚕所等を参観しました。また、皇居宮殿東庭松の塔前において、天皇杯受賞者を囲んで記念撮影が行われました。



天皇杯受賞者を囲んで記念撮影

天皇杯と農林水産祭

1. 天皇杯は、スポーツ及び農林水産業の振興のため、特に業績のあった最優秀者に対して授与されるものであり、現在、30個の天皇杯が宮内庁を通じて所管団体に下賜されています。

2. 昭和37年11月、財団法人日本農林漁業振興会が農林省と共催する農業祭参加表彰行事において、部門別の最優秀者（農産、園芸、畜産、蚕糸、林産、水産）として選ばれた者に対して授与するものとして、6個の天皇杯が宮内庁を通じて、財団法人日本農林漁業振興会に下賜されました。

その後、昭和54年度から、農林水産祭参加表彰行事に新たに加えられたむらづくり部門の特に優秀なものに授与されるものとして、天皇杯が1個下賜されました。

なお、部門名については、現在、農産・蚕糸、園芸、畜産、林産、水産、多角化経営、むらづくりの7部門となっています。

3. 天皇杯は、毎年農林水産関係団体等が「農林水産祭参加行事」として開催する約300の行事において、農林水産大臣賞（約500点）を受賞した者の中から、中央審査委員会の厳正な審査を経て選定されます。



令和5年度（第62回）農林水産祭「実りのフェスティバル」

令和5年度の「実りのフェスティバル」は、令和5年11月10日（金）、11日（土）の2日間、前年度と同様に東京都豊島区の池袋サンシャインシティにおいて開催いたしました。初日の開場に先立ち、秋篠宮皇嗣同妃両殿下が来場され、鈴木憲和農林水産副大臣をはじめとする関係者や各地のご当地キャラ、キャンペーンスタッフ等がお出迎えしました。

令和5年度の7部門の天皇杯受賞者の業績を紹介するコーナーでは、写真パネルをご覧いただきながら、農林水産省の川合技術総括審議官から両殿下へ天皇杯受賞者の業績のご説明が行われ、引き続き、鈴木副大臣、川合審議官、山野徹日本農林漁業振興会理事長ほかのご案内により、政府（農林水産省）特別展示コーナー、地域農林水産展（都道府県）コーナー、農林関係団体コーナーをご視察いただきました。

初日、2日目とも天候にやや恵まれませんでしたでしたが、新型コロナウイルス感染症対策のための入場登録を廃止したことなどから、2日間で昨年を上回る約18,000人の皆様にご来場いただきました。



天皇杯コーナーご視察



天皇杯パネル

政府（農林水産省）特別展示コーナー



水産女子から学ぼう



ジビエってなんだろう



農林水産統計に見る日本の農林漁業の姿



植物検疫所の紹介

内閣総理大臣賞・日本農林漁業振興会会長賞の紹介

令和5年度農林水産祭内閣総理大臣賞及び日本農林漁業振興会会長賞の受賞者をパネルで展示紹介しました。



内閣総理大臣賞パネル



日本農林漁業振興会会長賞パネル

東日本大震災被災地復興支援コーナー

東日本大震災からの被災地の一日も早い復旧・復興を願い、会場内に被災地の農林水産物の展示、販売等を行うため、「東日本大震災被災地復興支援コーナー」を設置し、展示をしました。



(公社) 全国乗馬倶楽部振興協会

都道府県技術・経営普及展コーナー

都道府県の独自性を有する農業技術や特徴ある農林水産物について、13道県の出展により実物、パネル等で展示紹介しました。



地域農林水産展（都道府県コーナー）

全国各地の農林水産物の試食・試飲、販売が行われ、大勢の来場者で賑わいました。出展された32道県のうち、秋篠宮皇嗣同妃両殿下には、岩手県、秋田県、福島県、千葉県、静岡県、石川県、三重県、和歌山県、熊本県、大分県、鹿児島県の11県の担当部長等から出展产品のご説明を行いました。



ご視察：石川県

地域農林水産展（都道府県コーナー）

■ ご視察該当県



岩手県



秋田県



福島県



千葉県



静岡県



三重県



和歌山県



熊本県



大分県



鹿児島県

■ ご視察該当以外の出展道県



北海道



青森県



山形県



栃木県



埼玉県



長野県



山梨県



新潟県



富山県



福井県



岐阜県



愛知県



岡山県



山口県



徳島県



香川県



高知県



福岡県



佐賀県



長崎県



宮崎県

会場風景



農林水産関係団体コーナー

秋篠宮皇嗣同妃両殿下は、農林水産関係団体コーナー 11 団体のうち、「日本地理的表示協議会」並びに「全国農業協同組合中央会（JA 広場）」を視察されました。

また、来場者が参加できる体験コーナーやクイズ、試食・試飲が楽しめるコーナーなど各種の展示が行われ、賑わいました。



日本地理的表示協議会



全国農業協同組合中央会（JA 広場）

■ ご視察該当以外の出展団体



全国い生産団体連合会



全国食肉生活衛生同業組合連合会



(公社) 全国乗馬倶楽部振興協会



(公財) 中央果実協会



(一社) 日本経節協会



(一社) 日本畜産副産物協会



(公財) 日本特産農産物協会



(一社) 日本パインアップル缶詰協会



(独) 農畜産業振興機構

体験、ふれあい



体験乗馬



ジャンボうさぎ



ご当地キャラ



キャンペーンガールの皆さん

農林水産物の贈呈

◆贈呈ご協力道県・団体◆

農林水産祭を祝い、実りの喜びを分かち合うとの趣旨で、7道県・2団体から提供された物品はフェスティバル終了後、東京善意銀行を通じて、福祉施設に贈呈されました。

これに対し、社会福祉法人東京都社会福祉協議会から令和5年11月11日付けで（公財）日本農林漁業振興会に対して感謝状が贈られるとともに、令和5年12月22日（金）に開催された東京都社会福祉大会において、これまでの功績をたたえる表彰状を授与されました。これらは、ひとえに農林水産物をご提供いただいた皆様のご協力によるものであり、深く感謝申し上げます。



北海道（JAグループ北海道（北海道中央会・北海道信連・ホクレン・北海道厚生連・共済連北海道）、秋田県（全農秋田県本部）、山形県、山梨県（JAグループ山梨、山梨県農畜産物販売強化対策協議会）長野県（おいしい信州フードキャンペーン推進委員会）、静岡県（静岡県温室農業協同組合、静岡県椎茸産業振興協議会）、大分県（全農大分県本部、大分県椎茸振興協議会、豊後別府湾ちりめん協議会）、JA全中、全国花みどり協会（日本花き生産協会、日本花き卸売市場協会、全国花卸協会、日本生花商協会、日本インドア・グリーン協会、JFTD、日本いけばな芸術協会、花の国日本協議会）（順不同）



農林水産祭事業の概要

目的は

農林水産祭事業は、国民の農林水産業と食に対する認識を深めるとともに、農林水産業者の技術改善と経営発展の意欲を高めるため、農林水産省と(公財)日本農林漁業振興会の共催により昭和37年から実施しています。

事業は

優秀農林水産業者に対して下賜された天皇杯等の授与と収穫を感謝する「農林水産祭式典」(毎年11月23日に開催)と優秀農林水産業者の技術・経営の紹介、農林水産物の展示・即売等を中心とする「実りのフェスティバル」の2本柱で行われています。

実施体制は

農林水産祭を推進するための農林水産祭実行委員会、農林水産大臣賞の受賞者の中から特に優秀なものを天皇杯等三賞受賞者として選定する農林水産祭中央審査委員会等、多くの関係者の協力の下で実施しています。

財源は

国の補助金のほか、都道府県の負担金、農林水産関係団体の寄付金、経団連関係団体・企業の寄付金等、多くの皆様のご協力をいただいています。

内閣総理大臣賞と日本農林漁業振興会会長賞



内閣総理大臣賞は、農林水産祭における三賞のひとつで、天皇杯・日本農林漁業振興会会長賞と同様に過去1年間に農林水産大臣賞を受賞された約500の出品財の中から、中央審査委員会における慎重かつ厳正な審査を経て部門毎に決定される大変名誉ある賞です。農林水産祭では昭和52年度の第16回から授与されています。



日本農林漁業振興会会長賞は、農林水産祭における三賞のひとつで、天皇杯・内閣総理大臣賞と同様に過去1年間に農林水産大臣賞を受賞された約500の出品財の中から、中央審査委員会における慎重かつ厳正な審査を経て部門毎に決定される大変名誉ある賞です。天皇杯とともに昭和37年度の第1回から授与されています。

公益財団法人日本農林漁業振興会

昭和37年に農林水産祭(当時は農業祭)が国民的行事として実施されることになった際に、全国の都道府県や農林水産関係団体などの幅広い協力を得るための中心的な存在として設立されました。優秀な農林水産業者を表彰するため、宮内庁から天皇杯を下賜された団体であり、農林水産祭とは密接かつ不可分な組織です。

close-up

農林水産祭(通巻第136号)

発行所 公益財団法人 日本農林漁業振興会

令和6年4月

本誌に掲載の記事、写真の無断転載を禁じます。
令和6年度の農林水産祭スケジュールにつきましては、
本会ホームページ等でお知らせする予定です。

〒104-0045 東京都中央区築地3-12-5 築地小山ビル4F
TEL 03 (6441) 0791(代) FAX 03 (6441) 0792
URL <http://www.affskk.jp>